

1 従来の英語教育からの脱却

日本の英語教育は今まで文法、英文和訳、書き換え練習、語彙などを中心とした“*What is English?* (英語とは何か)”に偏った教え方をしてきました。しかし第二次世界大戦後の急激な経済成長と、それに伴う国際的責任や立場の上昇に伴い、従来の吸収型ではなく、自ら発信していく必要性が叫ばれるようになりました。英語教育における「英語」の捉え方が見直され、「言語」である以上、その使い方、つまり“*How to use English*”が重要であることが近年ようやく理解されてきました。中学校でもターゲットの文型を使ってインフォメーション・ギャップのある活動が取り入れられています。

しかし国際語として英語が重要になってきた今、“*What do we use English for?*”、「何のために英語を使うのか」を考える必要があります。私達は「情報を交換するため」の手段として英語が必要であるということをきっちり認識しなければなりません。

「英文の日本語訳を書く」と「英文の内容を理解すること」の違いがわからない学生が大多数を占める現状は、学生だけに非があるのではなく、コマ切れの、内容のない文章の訳とその分析にほとんどの時間を費やしてきたわが国の英語教育が招いた結果であると言えるでしょう。

ここで“*What is English?*” “*How to use English*” “*What do we use English for?*”を具体的に理解していただくために、それぞれの教え方の例をあげてみます。

What is English?

従来、日本の英語教育は英語の語彙や規則を中心に教えてきました。「文章の最初は大文字で」「疑問文 *be* 動詞は主語の前にくる」「強調のための倒置文は」「分詞構文の書きかえは」といった具合に英語の分析を中心にした「英語とは何か」を教えてきたのです。

問題例

次の英文を受動態に書きかえなさい。

- ① We can see a big bird on the roof.
→ A big bird can be seen on the roof by us.
- ② Our parents take us to the zoo.
→ We are taken to the zoo by our parents.
- ③ My brother does not help me with my homework.
→ I am not helped with my homework by my brother.

このような無理な書き換え練習で、英語自体が奇妙で使えないものになることも少なくありません。

How to use English

“How to use English”の具体例としては、新しい文型や語句の機能に即した使い方に焦点を当て、インフォメーション・ギャップ(情報のずれ)のあるゲームや自己表現を促す活動があてはまります。語彙・文型がコントロールされた中での活動ですが、pattern practice の延長上のものから、学習者の意志が反映されるレベルのものまで、さまざまな活動があります。

下の例は小学校高学年の子供が既習の動詞 (be動詞、live、have、like、want) と助動詞 can を使って「30歳になった時の自分」という課題で文章を作ったものです。

作品例

I am thirty years old!

Hello. My name is Nanami Bandou.

I am a writer.

I live in Taiwan.

I have a second house in Hawaii.

I like sushi.

I don't like green pep·per.

I want a time machine.

I can cook.



What do we use English for? (The reason to use English)

前述したように語彙、文章の規則やその機能に即した使い方の練習は重要ですが、ここで止まってしまうと英語を運用することはできません。教室内で、いわゆる「作られた」場面で英語の使い方を練習するだけでは、「英語を使わなければならない必然性」(meaningful purpose)がありません。実社会で私達が英語を使う(読む、書く、聞く、話す)場合、たとえば何かを調べたい時、「その資料が英語で書かれていた」「英語でその結果を伝えなければいけない」「質問を英語でしなければいけない」「数人で英語で討論しなければいけない」のように、必ず使わなければならない必然性があります。

次の例は、動物の尾の機能を下の英文から読み取る問題で、英語歴7～8年の小学校6年生を対象にしたものです。答えは「日本語でも英語でも、学習者が内容を理解している限り、どちらでもよい」としています。子供達は設問を解いた後、英文から得た情報を英語で発表します。

英文例

Animals' tails are funny things. They come in all sizes and shapes. Some are short and curly. Some are long and straight.

Tails may look funny. But they can be very important.

How does a dog tell you he's happy? He wags his tail. What about when he's afraid? Then his tail droops down between his legs. A dog uses his tail to "talk" with you.

A rattlesnake talks with his tail too. He shakes his tail and it rattles. He's saying, "Stay away. I'm getting ready to bite."

The beaver has a wide, flat tail. It helps him steer when he swims. But he talks with it too. He slaps his tail on the water. This is a warning to other beavers: "Danger is near!"

What else can tails do? They can save an animal's life. Some lizards have tails that pull right off. An enemy may grab the lizard by the tail. Off comes the tail! And the lizard runs away. Later he grows a brand-new tail.

An alligator has a wide, hard tail. He can fight his enemies with it. He swings his tail like a huge club.

Tails can help some animals get their food, too. The spider monkey uses his long tail as an extra hand. He picks fruit from the trees with it. Or he reaches into birds' nests and steals eggs with it.

And the little brown bat uses his tail to scoop up flying insects. They'll be his dinner.

So you see, a tail may look funny. But it can be an animal's best friend.

What Are Tails For? by Joshua Young (READING POWER BUILDER 25) より抜粋 ©1990, 1973, Science Research Associates, Inc.

問題

英文から動物の尾の機能を4つに分類し、動物名とその具体例を書きましょう。

尾の機能	例（動物名）
1.	(.....) (.....)
2.	(.....)
3.	(.....) (.....) (.....)
4.	(.....) (.....)

解答: 1. コミュニケーション手段としての機能 … 嬉しい時は尾をふり、怖がっている時は後ろ足の間に垂らしている。(犬) / 尾で水面を叩いて敵が来たことを仲間知らせる。(ビーバー)
 2. 運動機能 … 泳ぐ時の舵の役割を果たす。(ビーバー)
 3. 自分を守る機能 … 敵に攻撃の警告をする。(ガラガラヘビ) / 敵に尾を握られて捕まりかけた時尾を切り離して逃げる。(とかげ) / 敵と戦う時、尾を振り回して戦う。(ワニ)
 4. 手としての(えさを取る)機能 … 尾を使って木から果物を取る。鳥の巣から卵を盗む。(くもざる) / 飛んでいる虫を尾ですくって取る。(ブラウンこうもり)

ここで重要なことは、英文を全訳することではありません。“尾”の機能以外の情報も必要ではありません。そして「何のために読むか」が明確です。このような課題を解くことによって、自分に必要な情報を英文から得る練習を重ねていくことが大切です。

このような種類の課題は一見難しいように見えますが、これからの英語教育は、“What is English?” “How to use English”, “What do we use English for? (The reason to use English)”の3つの観点を、初歩の段階からバランスよく取り入れていくべきであると考えます。